

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370792

研究課題名(和文) 相馬永胤家文書の基礎的研究 - 私立学校創立者の多面的分析のためのアプローチ -

研究課題名(英文) Basic research on the documents of Soma Nagatane

研究代表者

大谷 正 (OTANI, Tadashi)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：50127198

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：専修大学は、大学創立者の一人で、明治・大正期に弁護士・銀行家として活躍した相馬永胤の資料を所蔵している。われわれの研究グループは、相馬永胤家文書を整理して目録を作成し、この資料を研究者に公開する準備を行い、つぎに、相馬が明治9年(1876)から大正13年(1924)まで書き続けた日記の一部分を翻刻した。さらに、われわれは相馬永胤文書を分析して、つぎのような研究成果を得た。旧彦根藩士たちのネットワークの実態解明。明治初期のアメリカに留学した若者の実態解明。相馬永胤と横浜正金銀行の関係。

研究成果の概要(英文)：The documents of Soma Nagatane, who was one of the founders of Senshu University, a lawyer and a banker in Meiji and Taisho period, is now possessed by Senshu University. We researched the documents of Soma Nagatane and made a list of it, and got ready to open this documents to researchers, and reprinted a part of the diary which Soma continued to write from 1876 to 1924. Furthermore, we analyzed this documents and got the following results of research. The situation of the network of former Hikone Han's samurais in Meiji era. The situation of the young Japanese who studied in the United States in the early Meiji era. The activities of Soma Nagatane in the Yokohama Shokin Bank [the Yokohama Spice Bank].

研究分野：日本近代史

キーワード：日本近代史 相馬永胤 専修大学 横浜正金銀行 彦根藩 海外留学生

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 相馬永胤は旧彦根藩(最大の譜代大名である井伊家 30 万石)の藩士の家に生まれ、1870 年にアメリカ渡り、コロンビア大学とエール大学で法律学と経済学を学んだ。帰国後、アメリカ留学中に知りあった、目賀田種太郎、田尻稲次郎、駒井重格、金子堅太郎などと協力して、1880 年、経済学と法律学を日本語で教授する専修学校(専修大学の前身)を設立し、法律学を講義するとともに、長期間にわたって学校経営に当たった。

また彼自身は、法律知識を生かして、司法省附属代言人、判事などを務め、1882 年には横浜正金銀行(三菱東京 UFJ 銀行の前身の一つ)官選取締役就任し、1897 年から 10 年間同行頭取を務めた。このように、相馬は、学校経営者・教育者・法律家・銀行家という複数の顔を持ち、社会に貢献した。

相馬永胤家文書は、相馬が保存していた資料を、彼の孫に当たる相馬勝夫(元専修大学学長・総長)が専修大学に寄贈したもので、相馬永胤個人の文書のみならず、相馬家歴代の記録と相馬勝夫の関係文書も含まれている。

(2) 相馬永胤家文書は専修大学総務部大学史資料課に保存され、ある程度の文書の整理・修復・保存措置がなされ、これまでも『専修大学百年史』『相馬永胤伝』などの編集資料として使用されたが、未だに十分に公開・活用できる状態になかった。そこで、大学史資料課が中心となって、学内の研究者に呼びかけて研究会を作り、文書の整理・公開・研究について検討を進めていたが、幸いにも、科学研究費助成事業・基盤研究(C)「相馬永胤家文書の基礎的研究」(平成 25 年度から 27 年度)に採択されたことから、相馬永胤家文書の整理・公開の準備・研究を大きく進める条件が整った。

(3) 現在多くの大学に、自らの大学の歴史に関する資料の収集・保存・活用を担当する部署が存在する。こうした大学資料保存機関では、所蔵する資料をどの様に、整理・保存・活用すべきなのか、議論と試行錯誤がつづいている。とくに、平成 13 年の「情報公開法」および平成 22 年の「公文書管理法」の施行以後は、国公立大学を中心に議論がなされている。

本研究は、直接には相馬永胤家文書の整理・公開・活用を目指すものであるが、同時に、私立大学における、大学アーカイブスの整理・公開・活用のあり方について意識しながら研究計画を進め、専修大学の情況に適合した大学アーカイブスのあり方の方向性を検討することを目指した。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は以下の通りである。

第 1 に、専修大学が所蔵する相馬永胤家文

書を整理・調査し、目録を作成することである。これによって、相馬家文書を公開する前提条件を整備できる。

(2) 第 2 は、相馬永胤家文書のなかで最も注目される資料である、1876 年から 1924 年まで、約 50 年間にわたって相馬が記した日記の翻刻作業に着手することである。これによって、私学経営者としてだけでなく、教育者、法律家、銀行家として活動した相馬の多面的な活動を明らかにすることができる。

(3) 第 3 は、これらの基礎的作業および公開体制の確立、資料の分析を通じて、以下の 5 点の分析をおこなうことを当初は企画した。

彦根藩出身の土族と旧藩の関わりの実態解明。 明治初期の海外留学生の実態解明。

私立法律学校の設立と経営の実態解明。

横浜正金銀行の経営実態と明治政府の財政の関係性の解明。 明治・大正期における地縁・血縁ネットワークの形成と実態の解明。

しかし、実際に研究計画に着手すると、人的・時間的な制約もあるため、上記 5 点の研究テーマの中から、彦根藩土としての側面(明治期における旧藩ネットワークの分析)、海外留学生としての側面(教育史的側面)、銀行家・財界人としての側面(経営史的側面)の 3 側面に絞って研究をおこなった。

## 3. 研究の方法

(1) 最初に、相馬永胤家文書の整理・調査に着手した。資料を分類別・年代順に並び替え、整理番号を振った上で、平成 25 年度と平成 26 年度の 2 年間をかけて、主要な文書をデジタルカメラによる撮影またはスキャンングによって複写した。その上で、資料を一点ずつ確認しながら、目録を作成した。また、平成 26 年度には、相馬永胤が明治初期に留学したアメリカ東部を、3 名の研究メンバーで訪れ、相馬が学んだ学校と居住した住居跡を確認し、コロンビア大学とエール大学では関係資料の調査をおこなった。

(2) 相馬永胤日記の翻刻については、『専修大学百年史』編纂過程で作成された日記読み本(手書き)をパソコンに入力した上で、1876 年・1877 年のアメリカ留学中の英文日記 2 年分と相馬が横浜正金銀行頭取に就任した 1897 年から 1901 年までの 5 年分(日本文と英文が混在する)をあわせて 7 年分の日記の校訂と翻刻を試みた。この翻刻作業は、多大な時間と労力を必要とし、解読が困難な部分も残ったが、この 7 年分については、大学史紀要と科研の研究報告書に転載して公開した。

(3) 相馬永胤文書の分析については、3 カ年度の間に、9 回の研究会議を開催したが、この機会に研究メンバーと招待した学外研究者(櫻井良樹麗澤大学教授、北井辰弥中央大

学教授)が合計6本の研究報告をおこない、参加者で議論を交わした。

なお、研究報告のテーマと報告年月日は以下の通りである。

瀬戸口龍一「専修大学所蔵の相馬永胤家文書について」平成25年5月7日

黒沢眞里子「相馬永胤先生コロンビア大学留学時代の調査報告」平成25年7月2日

大谷正「相馬永胤日記に鰻会・鮫鯨会の記述はあるか」平成25年7月2日

櫻井良樹「明治17年ロンドンの日本人相馬永胤の周辺」平成26年2月25日

北井辰弥「大学創立者が残した資料から何を学ぶか」平成26年12月13日

瀬戸口龍一「相馬家文書に見る彦根藩士たち」平成27年12月13日

#### 4. 研究成果

(1) 相馬永胤文書の調査・整理・資料の複写とデジタル化・目録作成によって、相馬永胤家文書の公開体制を構築するための前提条件を整えることができた。全面的な公開にはまだ準備が必要であるが、現状でも、専修大学総務部大学史資料課に問い合わせただけであれば、大学史資料課において研究者に公開できる態勢が整えた。

(2) 相馬永胤日記の翻刻のための準備作業を進めるとともに、7年分の翻刻を試行的におこなった。これによって、相馬永胤のアメリカ留学の初期2年間の実態、および彼が正金銀行頭取として10年間在職した期間の前半5年分について、研究を進めるための資料を公開することができた。

(3) 相馬永胤家文書の分析を進め、彦根藩士としての側面(明治期における旧藩ネットワークの分析)、海外留学生としての側面(教育史的側面)、銀行家・財界人としての側面(経営史的側面)の3側面に絞って研究成果を、初歩的ではあるが発表した。発表の手段は、「5. 主な発表論文等」の考に記したように、『専修大学史紀要』、学会発表、図書刊行である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

上符達紀、イソソウ、加藤美和子、立岩睦世、大谷正「史料紹介・相馬永胤日記1900年1月から1901年12月」(『専修大学史紀要』第8号、2016年3月、94-137頁) 査

読なし

瀬戸口龍一「明治期における井伊家と土族たち「相馬永胤日記」から見る彦根藩士族たちの動向」(『専修大学史紀要』第7号、2015年3月、68-90頁) 査読なし

大谷正、黒沢眞里子、永江雅和「相馬永胤ニューヨーク事績調査報告」(『専修大学史紀要』第7号、2015年3月、114-124頁) 査読なし

瀬戸口龍一「大学アーカイブスの保存と活用についての一考察 専修大学所蔵相馬家文書の現状と課題」(『専修大学史紀要』第6号、2014年3月、70-92頁) 査読なし

〔学会発表〕(計1件)

瀬戸口龍一「相馬家文書に見る横浜正金銀行関係資料について」(横浜正金銀行ニューヨーク支店資料研究会、2015年3月14日)

〔図書〕(計1件)

大谷正編『研究成果報告書・相馬永胤家文書の基礎研究 私立学校創立者の多面的分析のためのアプローチ』2016年3月、発行・専修大学総務部大学史資料課、330頁

〔目次〕

・研究概要 3-10頁

・本文編 11-60頁

瀬戸口龍一「専修大学所蔵相馬家文書の現状と課題 大学アーカイブスの保存と活用についての一考察」

永江雅和「相馬永胤と横浜正金銀行『相馬永胤伝』の記述を中心に」

大谷正、黒沢眞里子、永江雅和「相馬永胤ニューヨーク事績調査報告」

・資料編 61-329頁

相馬永胤日記 1876-1877年(監修・黒沢眞里子)

相馬永胤日記 1897-1901年(監修・大谷正)

相馬家文書目録

本研究成果報告書は、下記のHPに掲載しています。

<http://otani-seminar.sakura.ne.jp/kaken/top.html>

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://otani-seminar.sakura.ne.jp/kaken/top.html>

専用のホームページを作成するに至らなかったが、研究代表者・大谷の個人ホームページに、研究成果報告書を掲載して、公開した。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷 正 (OTANI, Tadashi)  
専修大学・文学部・教授  
研究者番号：50127198

(2) 研究分担者

瀬戸口龍一 (SETOGUCHI, Ryuichi)  
専修大学・総務部大学史資料課・次長  
研究者番号：30645916

永江雅和 (NAGAE, Masakazu)  
専修大学・経済学部・教授  
研究者番号：70327980

黒沢眞里子 (KUROSAWA, Mariko)  
専修大学・文学部・教授  
研究者番号：40338588

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：